

令和6年度 第1回長井市社会教育委員会議事録 【議事概要】

日時：令和6年9月2日（月）10:00～11:50

場所：庁議室

出席者：■委員：加藤俊昭委員長、船山恒委員、上浦勤委員、平みわ委員、村上滋郎委員、梅津ひろみ委員、久保道典委員、桐生芳弘委員、大津君彦委員、平吹登委員

■事務局（各関連部署担当者）

高世潤（教育総務課長）、新野弘明（地域づくり推進課長）、鈴木千鶴子（観光文化交流課補佐）、山内陽子（地域づくり推進課生涯学習推進室長）、黒澤美紀（学校教育課指導主査兼指導主事）、佐藤淳史（健康スポーツ課スポーツ推進室係長）、武田誠広（地域づくり推進課生涯学習推進室係長）

協 議

（1）長井市の社会教育（生涯学習）について

事務局より資料を基に説明

委員：資料3のP15数値で見る長井市の学校教育で全国学力調査の小6、中3の国語と算数（数学）の数値が下がってきている。全国の正答率が書いていなかったなので調べたので、読み上げさせていただくと小学校6年生の国語が、R3が65、R4が65.8、R5が65で、3年間全国平均はほぼ変わっていない。長井市がちょっとずつ下がっている。小学校6年生の算数が、R3が70、R4が63.3、R5が60で、R3からR5で10ポイント下がっているので、長井市で下がっているのも仕方ないかと思う。

中学校3年生の国語が、R3が60、R4が69.3、R5が70で、R3が、全国が60で長井市が65という事なのでとてもいい数値だと思う。

中学校3年生の数学が、R3が55、R4が52、R5が55で、R3とR4が50あるのに対してR5が47まで下がってきているので、下がりが大きいかと思っていました。この結果を分析などされているのかお聞きしたい。

事務局：社会教育の分野としては、ちょっと離れるかもしれませんが、学校教育課として実施していることについて、お話させていただきます。

学力調査の結果の分析については、実施しておりまして、学校でも分

析し、授業改善に取り組んで頂いています。

全国と比べればというところはあるのですが、比較して見えるところもあります。まず、子どもたちの実態を把握して、何につまずいているかを大事に分析しているところです。昨年度、国語と算数(数学)があまり好きではないという子どもがすごく多くて、まずは国語と算数(数学)を好きになってもらう授業づくりをしていこうということで、昨年度より宮城教育大学の市川教授に来ていただき、全体で研修をしていただき、各校の授業改善アドバイザーとしてご意見を頂きながら授業づくりを進めている所です。おかげさまで今年度好きだというポイントの増加は10ポイント以上上がっていて、各学校の先生方が授業改善に向けて取り組んでいるので、今後好きだという子どもを増やして、さらに学習がわかる子どもを増やしていきたいと思います。

委員：高等学校としては小中で好きだというところを伸ばして頂いて、さらに学力アップにもつなげていただけると、いい大学に進学させることができるように頑張らせていきたいと思ったので状況をお聞きしました。

委員：2つ質問があるのですが、1つ目が、教育振興計画と長井市の教育が紐づいているという事で、教育振興計画の目標1、2、3と長井市の教育の目標1、2、3は一緒だと確認しました。目標3の市民誰もが幸せや生きがいを感じる元気なまちの施策は、振興計画だと基本施策4になっていて多様な活動とつながりが生まれる学びの推進となっています。基本施策5の幅広く開かれた文化・芸術と交流の創出、基本施策6の市民ひとり1スポーツを楽しむ元気なまちというのは、長井市の教育にしか載っていませんが、教育振興計画と長井市の教育をまとめた上位の計画があるのですか。目標3の施策5と6が長井市の教育にあるので、ここが社会教育に特化した部分なのかと理解したのですが、その理解であっていますか。

2つ目が、資料3のP30(2)多様な生涯学習活動の推進で各地区における社会教育事業への参加人数とあるが、具体的にどういった事業を社会教育事業としてカウントしたのか、教えて頂きたい。

事務局：1つ目の教育振興計画と長井市の教育についてですが、教育振興計画のP7に教育振興計画の範囲について記載しています。計画の範囲として、教育委員会の分野、市長部局の地域づくり推進課社会教育の分野のみ今回の計画の範囲としています。長井市の教育については、市

長部局に移管した内容も含んでいます。先ほどご質問があった内容についてはあっております。

委員：長井市の教育の P1 はじめにのところに、大綱の短期計画の位置付けで毎年度重点項目と施策を取りまとめているのが長井市の教育という事とあるのですが、大綱の中にはこの基本施策 5 と 6 のことが入っているのですか。

事務局：長井市の教育等に関する施策の大綱というものがもう一つ上位にあり、市長が教育について 5 年間総合的な施策について定めていますが、中身についてはあまり具体的ではなく、少し概念的なものをお示しさせて頂いています。それをかみ砕いたものが教育振興計画で、長井市の教育については、今年度の詳しい内容とさせていただいています。後ほど、大綱についてもこちらからご提供させていただきます。

事務局：2 つ目の具体的にどういった事業を社会教育事業としてカウントしているのかについてですが、各コミセンで社会教育事業として実施している事業に参加した人数となっています。

委員：社会教育の定義で、青少年と成人というのはわかりますが、中高年とか高齢者にはどのような社会教育をされるのですか。現状をどうとらえていますか。

令和 4 年 4 月から地域づくり推進課に生涯学習推進室が設置されたが、長井市の組織の中で、生涯学習推進室としての役割、位置付けをもう少ししっかりしてやってほしいです。

事務局：中高年とか高齢者の生涯学習については、拠点はコミュニティセンターという位置付けをしています。以前は、社会教育については、文化生涯学習課で担当しておりましたが、今は、コミュニティセンターの担当課である地域づくり推進課の中に生涯学習推進室を設置してコミュニティセンターと連携しながら中高年とか高齢者の生涯学習についても進めるという位置付けで取り組んでいる所です。

この後説明しますが、これからは、子ども・学校中心に地域と連携して生涯学習も含めて取り組んでいくスクール・コミュニティを行っていくということを考えています。中高年とか高齢者とかの目線で言いますと、これから発展させていきたいと考えています。

文化については観光と融合して観光文化交流課に、スポーツについても健康と融合して健康スポーツ課にして進めていこうという事で、市長

部局に移管していますが、教育委員会と連携をとりながらこれからも進めていきます。

(2) スクール・コミュニティについて

事務局より資料を基に説明

委員：子ども・地域・学校が対等な位置関係になることが大切だと思います。致芳小学校をモデル校にしているということですが、資料を見ると、子どもが真ん中で、学校中心になっていないのいいと思います。社会や地域の方との関わりが大事で、学校からのトップダウンでは上手くいかないと思うので、その辺はどのように考えていますか。

事務局：子どもたちを真ん中としたときに、学校や地域で関わり合っ
て子どもたちが学習していくという視点が大事だと思います、その思
いも込めてスクール・コミュニティという形、学校を縁とした
人々のつながり、そこで地域の課題もいっしょに解決していこ
うという方向性も含めてこの名前にしました。それを大事に進
めていきたいと考えています。致芳小学校をモデル校にしてい
ますが、日常的な学校の中での関わりからお互いの理解やいっ
しょに生きていくということを子どもも大人も考えていくとい
う関係性が大事だと思っています。例えば、防災のことを考え
たときに、避難所で生活しなければいけなくなったとき、日々
のつながりや相互理解が大事になってくると思います。最近の
状況を考えれば非常に大事なことですし、丁寧に進めなければ
いけないと思っています。

委員：地域学校協働活動推進員が各学校に配置されていますが、本来の
役割が発揮されていないのではないかと思いますので、もっと働き方
を考えて欲しいと思います。

事務局：働き方としては、各学校の実情に合わせてというところはもちろ
んありますが、推進員の方が集まっていた時に、地域・学
校なので、コミセンと繋がってほしいということはこちらからも
伝えています。推進員の方にも地域に疎いという方もいらっしゃる
ので、コミセンとの交流という部分で、学校と地域の平等の部
分のバランス的な存在になって欲しいと思っている所です。架
け橋があるところで、スクール・コミュニティがうまく進んで

いくのかと思っています。常に推進員と話していきたいと思っています。

委員：地域学校協働活動推進員の報酬等の処理が、地域づくり推進課で行われていますが、教育委員会の方で行った方が一体感があっていいのではないかと思います。地域づくり推進課から派遣されているように私は感じたので、地域づくり推進課と教育委員会が連携して進めて欲しいです。

事務局：推進員は教育委員会から委嘱を受けてやっていただいていますので、地域づくり推進課からではないということをご理解いただきたいと思います。

委員：スクール・コミュニティは、どのくらいのタイミングで何が実現するのかが気になっています。普段使いをするとどこまでいくのか、どのくらいのスピード感を想定されているのか教えて頂きたいです。

事務局：できれば、早めに普通に学校に行って活動の場にしたいと思っていますので、学校と各コミュニティセンターと連携しなければいけないと思っていますが、まだ、その段階には至っていません。今は、普段使いというよりは、イベントでというのが多いので、今年度は致芳小学校をモデルにして上手くいくように進めながら来年度以降出来るようにしていきたいですし、他の地区にも展開していきたいです。地域によっても温度差がありますが、比較的伊佐沢地区はすぐできるのではないかと思います。致芳地区で上手くいったところをすぐ横展開できるようにしていきたいです。時期やスケジュールについては、地域づくり推進課や教育委員会と調整していきたいと考えています。

委員：中央コミセンは、大分老朽化が進んでいて、体育館は雨漏りして活動に支障が出てきています。体育館は、中・高齢者の方の利用が多いので、スクール・コミュニティが進んで長井小学校の体育館が使えるようになればとてもいいと思います。また、月1回放課後子ども教室で、コミセンが学校に出向いて活動を行っています。そういう点からも、長井小学校と少しずつ関係が出来てきています。地区と繋がることに大変苦勞しているので、学校とも連携しながら外から幅を広げていく方がいいのかなという思いもありますので、ぜ

ひ、早めに進めて欲しいです。

事務局：中央コミセンは、事業規模が大きいという事でなかなか難しいが、引き続き検討させていただきたい。

委員：学校に出入りしてもっと子どもと接したいという思いがある。

事務局：調整させて頂きたいと思う。委員に声をかけさせていただき、いろいろな場面でご指導いただきたいと思います。

委員長：スクール・コミュニティが致芳小学校で始まったという事なので、その効果というものを見極めながら、他の地域の方にも順次進めていきたいということですし、この準備期間のうちに各地域の人が考えていけばいいのかなと思いますので、地域の人に語り掛けていただいてしかるべき時までには準備して頂くといいのかなと思います。声掛けをしていただければスムーズにいくのかなと思いますし、検証もできるかと思います。

事務局：今までは教育委員会の学校教育課が中心になって進めてきましたが、スクール・コミュニティなので各コミュニティセンターとの連携が必須になってくると思いますので、地域づくり推進課で進めていかなければいけないと思います。今までなかなか進めてこれませんでした、これから頑張っていきたいと思います。

(3) その他

委員長：みなさんに社会教育におけるご自分の立場から一言ずつ頂ければと思います。

委員：今年度から部活が任意加入になり、令和8年度からは土・日は学校では部活動をしなくなります。そこには必ず、子ども達と保護者の選択が伴ってきます。今まで一律だったのがそうでない時代になってきます。二極化が進むことが心配ですが、これからは社会教育が重要になってくると思います。ボランティア活動、コミセン活動、いろんな機会を与えてもらって感謝しています。そこにも参加するか参加しないという選択がついてくるわけですが、何にも参加しない子どももでてきます。そういった部分を今後どうしていくかというのが学校としても課題ですし、社会全体としてもしっかり見ていく必要があると感じています。そんなところ

を今後話題に出来ればと思います。

委員：スクール・コミュニティという考え方は、高等学校ではあまりなじみは無いが、学区ごとの子育ての拠点になるのかなあと思いました。地域で子どもを育てていくということかと理解しました。高校生の立場とすれば、ボランティア活動で社会に貢献することが必要になってくると思います。小中学校生向けや一般の方向けのボランティア活動ができるように学校としても支援していきたいです。先日も旧長井小学校第一校舎で、探究科学部が子ども向けのイベントをやって好評を得ていたようなので今後もボランティア活動を推進していければと思います。

委員：スクール・コミュニティについてですが、子どもが地域に愛着を持てるためにも地域でいきいきと活動している大人の姿を間近で見てもらうことが非常に大事だと思うので、その意味でもスクール・コミュニティは大事だと思いました。冒頭で、参事がおっしゃったように社会教育は地域づくりだというのは、そこなのかなと思いました。市民会議の会長としてなんですけれども、長井市の教育のP29にあるのですが、社会参加活動の推進として少年会議の事業をやっております。子どもたちが地域に開かれた視点をもつため、まちづくりへの参画意識の高まりを目指しています。みなさん、傍聴できますのでぜひ聞きに来ていただければと思います。

委員：子どもからお年寄りまでどう幸せに生活できるかが大事だと思っています。市民全員が危機感を持って考えて動けるような、動きやすいきっかけがあればいいと思います。地域の子どもに関わっていいという風にみんながなれば幸せな姿なのだと思う。日々、あらゆるコンテンツが大量にあってそれを消費する忙しい時代なので、忙しい中に幸せを考えていかなければいけないというのをどういう風にするか日々考えています。わらじづくりのワークショップを行ってコミセンと関わっています。地域に誇りをもてるプロジェクトがあれば、いずれ小学生、中学生になっていく子ども達がどのようになっていくかを見守りながら様々な取り組みに関わっていかれたらと思いました。

委員：学校が子どもの居場所になるようにフリースクールのような形が求められていると思います。学校にいけない子どもたちが増えているという現状の中で、実際の学校の中で子どもたちが真ん中にいて、

子どもたちの笑い声が響くようにしていくのが我々の務めだと思います。

委員：先日、南中の体育館で柔道の大会をしました。冷房もあってよかったです。将来的には、平日の部活動も地域連携になってくるのではないかと思いますので、学校施設としてではなく、市で施設を設置して、中学校が使う時間、一般の人が使う時間というような使い方もできるのかなということも思いました。
最初の委員長のあいさつにもありましたが、固定概念にとらわれずに考えていくことも重要だと思いました。

委員：社会教育とは、どういう風に生きていきたいか、どういう風に生きていくかだと思います。子どもたちにいろいろな体験をさせてあげたいと考えているので社会教育はそこにマッチしていると思います。今までは、小学校は聖域という感覚で社会は作られてきたがこれからは、そうではなくなっていくようなので期待したいと思っています。

委員：住民より、スクールバスの乗り場の見直しをしてほしいという要望がありました。少子化で子どもも少なくなってきたので子どもたちの安全の点からも乗り場の見直しをお願いしたいです。
もう1点が、1回目の社会教育委員会の開催をもっと早くして欲しいです。6月までには開催して欲しいと思います。

委員長：環境も社会教育、生涯教育の大事な要素として考えなければいけないのではないかと思います。そこを今後どのように取り扱っていくのか重要になってくると思います。いい具合に調和できれば長井らしさがますます増すと思います。
その他、全体を通して何かあればお願いします。

委員：部活動の地域移行に関連して、中学校と高校の部活動の任意加入のデータをいただきたい。

事務局：中学校のデータについては、後日送付します。

委員：長井高校は、任意加入といっても各学年10人くらい入っていないが、9割以上が部活動に加入している。